

基本計画書

基 本 計 画		記 入 欄		備 考						
事 項										
計 画 の 区 分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フ リ ガ ナ 者	ガッコウホクケン ヒョウカクガク									
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称	学校法人 兵庫医科大学 ヒョウカクガクダクイン									
大 学 本 部 の 位 置	兵庫県西宮市武庫川町1番1号									
大 学 の 目 的	本学大学院は、建学の精神にもとづき、医学・医療の諸理論とその応用について学修・研鑽し、崇高な人間愛を有し、創造性豊かな自立した医学研究者、並びに高度な専門知識・技術を有する医療人を育成する。そのために必要な高度の研究実践能力とその基盤となる豊かな学識を培い、さらに研究活動によって得た成果を社会に還元することで医学・医療の発展に寄与する。									
新設研究科等の目的	看護学研究科は、看護学専攻を設け、先駆的・創造的に高度看護実践できる能力と看護ケアを創生・発信できる能力を育成する。看護学を中心とした学際的な知識と高度看護実践能力に立脚し、看護学と医療の進歩・発展に貢献できる看護実践者・研究者・教育者を育成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部・研究科】 ・看護学部 看護学科 看護学研究科 看護学専攻 修士課程 14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻 [Course of Nursing] 計	3	2	—	6	6	博士 (看護学) [Doctor of Philosophy in Nursing]	保健衛生学関係 (看護学関係)	令和7年 4月 第1年次	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程 → 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 ・令和6年4月名称変更予定（令和5年6月届出済） 医療科学研究科 医療科学専攻 → リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 ・リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程（2）（令和6年3月認可申請） 									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	14単位				
	看護学専攻	9科目	3科目	0科目	12科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の 教員 (助手を除く)		
新 設 分	看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	16 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	23 (22)	0 (0)	6 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程を 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程へ 名称変更予定 ・リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻 博士後期課程 令和6年3月認可申請 ・令和5年6月名称変更届出 医療科学研究科 医療科学専攻をリハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻へ名称変更 	
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻（博士後期課程）	10 (8)	6 (6)	9 (9)	0 (0)	25 (23)	0 (0)	6 (6)		
	計	26 (23)	12 (12)	10 (10)	0 (0)	48 (45)	0 (0)	— (—)		
既 設 分	医学研究科 医科学専攻（博士課程）	67 (67)	31 (31)	80 (80)	138 (138)	316 (316)	— (—)	— (—)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年6月名称変更届出 医療科学研究科 医療科学専攻をリハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻へ名称変更 	
	医学研究科 先端医学専攻（博士課程）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	— (—)	— (—)		
	薬学研究科 医療薬学専攻（博士課程）	14 (14)	9 (9)	9 (9)	11 (11)	43 (43)	0 (0)	0 (0)		
	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）	14 (14)	9 (9)	6 (6)	6 (6)	35 (35)	0 (0)	73 (73)		
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻（修士課程）	9 (9)	4 (4)	7 (7)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	25 (25)		
計	105 (105)	53 (53)	102 (102)	156 (156)	416 (416)	0 (0)	— (—)			
合 計	108 (105)	53 (53)	102 (102)	156 (156)	419 (416)	0 (0)	— (—)			
職 種	専 属		そ の 他		計					
事 務 職 員	492人 (492人)		0人 (0人)		492人 (492人)		※大学全体：西宮キャンパスと神戸キャンパスの合計。 ※病院職員はその他の職員に含む			
技 術 職 員	17人 (17人)		0人 (0人)		17人 (17人)					
図 書 館 職 員	5人 (5人)		0人 (0人)		5人 (5人)					
そ の 他 の 職 員	2,152人 (2,152人)		0人 (0人)		2,152人 (2,152人)					
指 導 補 助 者	0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)					
計	2,666人 (2,666人)		0人 (0人)		2,666人 (2,666人)					

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	※大学全体【うち、神戸キャンパス分】 ・校地 49,138.00㎡			
	校舎敷地	147,350.10㎡	0㎡	0㎡	147,350.10㎡				
	その他	25,406.37㎡	0㎡	0㎡	25,406.37㎡	【うち、梅田健康医学クリニック借用1,143.11㎡、期間2022年～2032年】			
	合計	172,756.47㎡	0㎡	0㎡	172,756.47㎡				
校舎	専用	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	※大学全体【うち、神戸キャンパス分】 ・校舎35,075.83㎡			
	80,079.50㎡ (80,079.50㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	80,079.50㎡ (80,079.50㎡)				
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	36室	※大学全体【うち、神戸キャンパス分】 ・講義室20室 ・実験・実習室36室 ・演習室31室 ※新設研究科等の専任教員研究室は看護学研究科と看護学部共通			
	36室	50室	98室	36室					
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 冊	機械・器具 点	標本 点	※看護学部・看護学研究科で共通 【大学全体での共用分】 ・図書12,140冊 〔862冊〕 ・学術雑誌7,200種 〔5,715種〕 〔うち電子ジャーナル7,148種〕 〔5,707種〕	
	看護学研究科 看護学専攻（博士後期課程）	12,424 [1,140] (12,016 [1,134])	16 [4] (8 [2])	260 [120] (260 [120])	52 [52] (52 [52])	182 (182)	47 (47)		
	計	12,424 [1,140] (12,016 [1,134])	16 [4] (8 [2])	260 [120] (260 [120])	52 [52] (52 [52])	182 (182)	47 (47)		
経費の積及び方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	※図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。 ※経費の見積りは研究科単位での算出のため、学部との合計 【神戸キャンパス全体での共用分（設備購入費）】 44,433千円
		教員1人当たり研究費等		318千円	318千円	318千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		700千円	700千円	700千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	13,515千円	13,515千円	13,515千円	13,515千円	— 千円	— 千円	
		設備購入費	338千円	338千円	338千円	338千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当たり納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		
		800千円	600千円	600千円	— 千円	— 千円			
	学生納付金以外の維持方法の概要	寄附金収入、補助金収入、手数料収入等を充当							
既設大学の状況	大学等の名称	兵庫医科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	医学部 医学科	年	人	年次人	人	学士（医学）	1.04	昭和47年度	兵庫県西宮市 武庫川町1番1号
	薬学部 医療薬学科	6	112	—	672	学士（薬学）	0.88	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	看護学部 看護学科	6	150	—	900	学士（看護学）	1.12	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	リハビリテーション学部 理学療法学科 作業療法学科	4	100	—	400	学士（理学療法学） 学士（作業療法学）	1.18 1.03	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	医学研究科 博士課程 医科学専攻 先端医学専攻	4 4	40 40	— —	160 160	博士（医学） 博士（医学）	1.23 0.03	昭和53年度	兵庫県西宮市 武庫川町1番1号
	薬学研究科 博士課程 医療薬学専攻	4	3	—	12	博士（薬学）	0.83	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	看護学研究科 修士課程 看護学専攻	2	8	—	16	修士（看護学）	1.25	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6
	リハビリテーション科学研究科 修士課程 リハビリテーション科学専攻	2	8	—	16	修士（医療科学）	1.18	令和4年度	兵庫県神戸市中央区 港島1丁目3番地6

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：兵庫医科大学病院 目的：教育、診療 所在地：兵庫県西宮市武庫川町1番1号 設置年月：昭和47年4月 規模等：土地20,107.37㎡ 建物90,034.35㎡</p> <p>名称：兵庫医科大学ささやま医療センター 目的：教育、診療 所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡5番地 設置年月：平成9年10月（平成22年6月「兵庫医科大学ささやま医療センター」と改称） 規模等：土地17,391.97㎡ 建物11,953.02㎡</p> <p>兵庫医科大学ささやま老人保健施設 目的：教育、診療 所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡36番地 設置年月：平成11年9月 規模等：建物4,361.29㎡</p> <p>兵庫医科大学ささやま居宅サービスセンター 目的：教育、診療 所在地：兵庫県丹波篠山市黒岡36番地 設置年月：平成28年1月 規模等：建物4,449.1㎡</p> <p>名称：兵庫医科大学図書館 目的：教育 所在地：兵庫県西宮市武庫川町1番1号（西宮キャンパス） 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6（神戸キャンパス） 設置年月：昭和47年4月（西宮キャンパス）、平成19年4月（神戸キャンパス） 規模等：997㎡（西宮キャンパス）、2,795.24㎡（神戸キャンパス）</p> <p>名称：薬用植物園 目的：薬学部教育 所在地：兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番地6 設置年月：平成19年4月 規模等：面積556㎡、園内附帯施設 温室47㎡</p> <p>兵庫医科大学梅田健康医学クリニック 目的：教育、診療 所在地：大阪府大阪市北区梅田1-13-1 大阪梅田ツインタワーズ・サウス 13F 設置年月：令和4年10月 規模等：1143.11㎡</p>	
----------------	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外を除く教員	
基礎科目	看護科学研究論	1前	/	2			○			3						1 共同 ※演習 5 オムニバス
	理論看護学	1・2前		1			○			1						
	看護倫理学	1・2前		1			○			2	2					
	看護システム開発学	1・2前		1			○			1	1					
小計 (4科目)		—	—	2	3	0	—			6	3	1	0	0	6	
専門科目	看護ケア実践開発科学特講	1・2前	/		1		○			2						※演習
	看護教育学特講	1・2前		1			○			1						※演習
	政策・管理看護学特講	1・2前		1			○			1						※演習
	高度実践開発看護学特講	1・2前		1			○			2						※演習
	生活支援開発看護学特講	1・2前		1			○			4						※演習
小計 (5科目)		—	—	0	5	0	—			10	0	0	0	0	0	
研究科目	特別研究Ⅰ	1通	/	2				○		16	6					
	特別研究Ⅱ	2通		2				○		16	6					
	特別研究Ⅲ	3通		4				○		16	6					
	小計 (3科目)			—	—	8	0	0	—			16	6	0	0	0
合計 (12 科目)		—	—	10	8	0	—			16	6	1	0	0	6	
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係)							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
基礎科目 4 単位以上、専門科目 2 単位以上、及び研究科目 8 単位の計 14 単位の単位修得並びに学位論文の審査及び最終試験に合格すること。									1 学年の学期区分			2 学期				
									1 学期の授業期間			15 週				
									1 時限の授業の標準時間			90 分				

教育課程等の概要

（看護学研究科看護学専攻 修士課程（博士前期課程））

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く） 教員以外の教員			
共通科目 (修士・博士前期課程)	医療統計学特論	1後	/	1			○								1	オムニバス・共同（一部）			
	医療倫理学特論	1前		1			○												
	先進医療支援特論	1前		1			○			1									
	小計（3科目）	—		—	0	3	0	—	—	—	1	2	2	0	0		7	—	
看護学共通科目	看護教育論	1前	/	2			○					1				2	オムニバス		
	看護倫理	1前		2			○			1							1		
	看護理論	1前		2			○			1							1		
	看護管理論	1後		2			○										2	オムニバス	
	看護政策論	1後		2			○										3	オムニバス	
	コンサルテーション論	1後		2			○			1							5	オムニバス・共同（一部）	
	看護研究	1前		2			○			4	1							オムニバス・共同（一部）	
	看護研究演習	1前		1				○		6	1							オムニバス・共同（一部）	
	システマティックレビュー	1前		2				○		1									
	A	アドバンスト・フィジカルアセスメント		1前	2			○			1		1					10	オムニバス・共同（一部）
	B	臨床薬理学・薬物治療特論		1後	2			○			2							10	オムニバス・共同（一部）
		疾病・病態特論		1前	2			○			1	1						11	オムニバス・共同（一部）
	小計（12科目）	—	—	0	23	0	—	—	10	3	2	0	0	40	—	—			
看護学専門科目	基礎看護学特論	1前	/	2			○			2	1						共同		
	基礎看護学援助特論	1後		2			○			2	1	1					1	共同	
	基礎看護学演習Ⅰ	1通		2				○		2	1	3	3					オムニバス・共同（一部）	
	基礎看護学演習Ⅱ	1通		2				○		2	1							共同	
	基礎看護学演習Ⅲ	1通		2				○		2	1	3	2					共同	
	基礎看護学特別研究	2通		10				○		2								共同	
	看護教育学特論	1前		2				○		1	1	1						共同	
	看護教育学援助特論	1後		2				○		1	1	1						共同	
	看護教育学演習Ⅰ	1通		2				○		2	1	2						共同	
	看護教育学演習Ⅱ	1通		2				○		1	1	1						共同	
	看護教育学演習Ⅲ	1通		2				○		1	1	1						共同	
	看護教育学特別研究	2通		10				○		1								共同	
	看護開発科学特論	1前		2				○		1									
	看護開発科学援助特論	1後		2				○		1									
	看護開発科学演習Ⅰ	1通		2					○	1									
	看護開発科学演習Ⅱ	1通		2					○	1									
	看護開発科学演習Ⅲ	1通		2					○	1									
	看護開発科学特別研究	2通		10					○	1									
小計（18科目）	—	—	0	60	0	—	—	—	3	1	3	3	0	1	—	—			
看護学専門科目	急性病態治療学	1前	/	2			○										7	オムニバス	
	急性看護学特論	1前		2			○			1									
	急性看護学援助特論Ⅰ	1前		2			○			1	1							共同	
	急性看護学援助特論Ⅱ	1後		2			○			1	1						2	オムニバス	
	急性看護学援助特論Ⅲ	1通		2			○										6	オムニバス	
	急性看護学演習ⅠA	1通		2				○		1	1							共同	
	急性看護学演習ⅡA	1通		2				○		1	1							共同	
	急性看護学演習ⅢA	2通		2				○		1	1							共同	
	急性看護学演習ⅠB	1通		2				○		1	1						3	オムニバス・共同（一部）	
	急性看護学演習ⅡB	1通		2				○		1	1						2	オムニバス・共同（一部）	
	急性看護学演習ⅢB	2前		2				○		1	1						2	オムニバス	
	急性看護学実習Ⅰ	1後		2					○	1	1							共同	
	急性看護学実習Ⅱ	2通		2					○	1	1							共同	
	急性看護学実習Ⅲ	2通		2					○	1	1							共同	
	急性看護学実習Ⅳ	2通		4					○	1	1							共同	
	急性看護学特別研究	2通		10				○		1	1							共同	
	急性看護学課題研究	2通		2				○		1	1							共同	
	がん病態治療学	1前		2				○		1								15	オムニバス・共同（一部）
	がん看護学特論	1前		2				○		1									
	がん看護学援助特論Ⅰ	1後		2				○		1									
	がん看護学援助特論Ⅱ	1後		2				○		1									
	がん看護学援助特論Ⅲ	2前		2				○		1									
	がん看護学演習ⅠA	1前		2					○	1									
	がん看護学演習ⅡA	1後		2					○	1							1	オムニバス・共同（一部）	
がん看護学演習ⅠB	1前	2					○	1											
がん看護学演習ⅡB	1後	2					○	1							1	オムニバス・共同（一部）			
がん看護学演習Ⅲ	1後	2					○	1											
がん看護学実習Ⅰ	1後	2						1								共同			
がん看護学実習Ⅱ	2通	2						1								共同			
がん看護学実習Ⅲ	2通	2						1								共同			
がん看護学実習Ⅳ	2通	2						1								共同			
がん看護学実習Ⅴ	2通	2						1								共同			
がん看護学特別研究	2通	10				○		1											
がん看護学課題研究	2通	2				○		1											

教育課程等の概要																
（看護学研究科看護学専攻 修士課程（博士前期課程））																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く
看護学専門科目	療養支援看護学分野	慢性看護学特論	1前	/	2		○			1	1					共同
		慢性看護学援助特論	1後	/	2		○			1	1					共同
		慢性看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1	1					共同
		慢性看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1	1					共同
		慢性看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1	1					共同
		慢性看護学特別研究	2通	/	10			○		1	1					共同
	精神看護学分野	精神看護学特論	1前	/	2		○			1	1					共同
		精神看護学援助特論	1後	/	2		○			1	1					共同
		精神看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1	1	1				共同
		精神看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1		1				共同
		精神看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1	1					共同
		精神看護学特別研究	2通	/	10			○		1	1					共同
	小計（46科目）		—	—	0	126	0	—	—	4	3	1	0	0	33	—
	家族支援看護学分野	小児看護学特論	1前	/	2		○			1	1					共同
		小児看護学援助特論	1後	/	2		○			1	1					共同
		小児看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1	1					共同
		小児看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1	1					共同
		小児看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1	1					共同
小児看護学特別研究		2通	/	10			○		1	1					共同	
母性看護学特論		1前	/	2		○			1						オムニバス	
母性看護学援助特論		1後	/	2		○			1	1	1				共同	
母性看護学演習Ⅰ		1通	/	2			○		1	1					オムニバス	
母性看護学演習Ⅱ		1通	/	2			○		1						共同	
母性看護学演習Ⅲ		1通	/	2			○		1	1					共同	
母性看護学特別研究		2通	/	10			○		1						共同	
小計（18科目）		—	—	0	60	0	—	—	3	2	0	0	0	1	—	
生活支援看護学分野	老年看護学特論	1前	/	2		○			1						共同	
	老年看護学援助特論	1後	/	2		○			1	1					共同	
	老年看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	老年看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	老年看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	老年看護学特別研究	2通	/	10			○		1	1					共同	
	地域看護学特論	1前	/	2		○			1						共同	
	地域看護学援助特論	1後	/	2		○			1						共同	
	地域看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1						共同	
	地域看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1						共同	
	地域看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1						共同	
	地域看護学特別研究	2通	/	10			○		1						共同	
	在宅看護学特論	1前	/	2		○			1	1					共同	
	在宅看護学援助特論	1後	/	2		○			1	1					共同	
	在宅看護学演習Ⅰ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	在宅看護学演習Ⅱ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	在宅看護学演習Ⅲ	1通	/	2			○		1	1					共同	
	在宅看護学特別研究	2通	/	10			○		1	1					共同	
小計（18科目）		—	—	0	60	0	—	—	3	2	0	0	0	0	—	
合計（115科目）		—	—	0	332	0	—	—	14	9	6	3	0	78	—	
学位又は称号	修士（看護学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
・看護学基礎研究領域 以下の①②③の科目を合計32単位以上履修し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格する。 ①共通科目（修士・博士前期課程）：3科目のうち2科目（2単位）以上選択 ②看護学共通科目：12科目のうち2科目（4単位）以上選択 ③看護学専門科目：専攻分野の看護学特論、看護学援助特論、看護学演習の計10単位以上、および看護学特別研究10単位を履修 ・看護学課題研究・高度実践領域 以下①②③の科目を合計42単位以上履修し、かつ必要な研究指導を受けた上で課題研究報告書の審査及び最終試験に合格する。 ①共通科目（修士・博士前期課程）：3科目のうち2科目（2単位）以上選択 ②看護学共通科目：Aの7科目のうち4科目8単位以上、Bの3科目6単位を履修 ③看護学専門科目：専攻分野の看護学特論、看護学援助特論、看護学演習から14単位以上、看護学実習10単位と課題研究2単位を履修								1学年の学期区分			2 学期					
								1学期の授業期間			15 週					
								1時限の授業の標準時間			90 分					

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の概要	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基	人間と言葉	基礎英語	1前	2			○					1			兼2	※演習
		英語会話	1後	2				○				1			兼2	
科学英語		2前		2			○				1				※演習	
応用英語		2後		2			○								兼1	
中国語		1後		2				○							兼2	
韓国語		1後		2				○							兼2	
	小計(6 科目)	—	4	8	0				0	0	1	0	0	兼8	—	
礎	人間と文化	芸術学	1前	2			○								兼2	
		アカデミックリテラシー	1前	2			○			3	1	4	3		兼25	※演習 共同
		健康スポーツ科学 I	1前	1					○						兼3	共同
		健康スポーツ科学 II (理論を含む)	1後	1					○						兼3	共同
		国際比較文化論	1前		2			○							兼1	
	小計(5 科目)	—	4	4	0				3	1	4	3	0	兼31	—	
分	人間と社会	生命・医療倫理学	1後	2			○					1				
		哲学	1前		2		○					1				
		法学 (日本国憲法を含む)	1後		2		○									兼1
		教育学	1前		2		○									兼1
		社会学	1前		2		○									兼1
		人間発達学	1前		2		○									兼1
		小計(6 科目)	—	2	10	0				0	0	1	0	0	兼4	—
野	人間と科学	数理科学入門	1前		2		○			1						
		化学と生命	1前		2		○								兼2	
		生物学	1後		2		○								兼1	
		心理学	1前		2		○								兼1	
		情報の科学	1後		2		○			1						
		科学論	1後		1		○			1		1			兼2	
		医療概論	1前		1		○					1	1		兼5	
		統計学	1後		2		○								兼2	
		早期臨床体験実習	1前		1				○	3	2	4			兼20	共同
		小計(9 科目)	—	6	9	0				3	2	5	1	0	兼25	—
専	人間と健康	形態機能学I(運動器・神経系)	1前	2			○								兼2	
		形態機能学II(循環器・内臓系)	1後	2			○								兼3	共同
		看護形態機能学	1前	1			○			6	1					オムニバス
		生化学	1後	1			○								兼1	
		病理学	2前	1			○								兼2	
		疾病・治療論 I (内科)	2前	1			○								兼4	
		疾病・治療論 II (外科)	2前	1			○								兼12	オムニバス
		疾病・治療論 III (精神/老年)	2前	1			○								兼4	オムニバス
		疾病・治療論 IV (母性/小児)	2前	1			○								兼10	オムニバス
		医療遺伝学	2後		1		○								兼5	共同
		免疫学 (含微生物学)	1後	1			○								兼1	
		薬理学	2前	1			○								兼2	
		栄養学	2前	1			○								兼1	
		臨床心理学 (カウンセリング論を含む)	2後		2		○								兼1	
	小計(14 科目)	—	14	3	0				6	1	0	0	0	兼43	—	
礎	環境と健康	公衆衛生学	2前	2			○								兼6	
		疫学	3前	2			○			1					兼2	
		保健統計学	2前	1			○			1						
		小計(3 科目)	—	5	0	0				1	0	0	0	0	兼6	—
分	人間と環境	社会福祉学	1前	2			○						1			
		保健医療福祉行政論	2後	2			○						1			
		食品・環境論	1後		2		○								兼1	
		国際医療福祉論	1・2後		1		○			1					兼1	
		地域ボランティア論	4後		1		○						1			
		小計(5 科目)	—	4	4	0				1	0	0	1	0	兼2	—
野	チーム医療	医療コミュニケーション論	1後	2			○								兼2	※演習
		チーム医療概論	2後	1			○			3	1	2			兼13	※演習 共同
		総合リハビリテーション論	3前		1		○								兼4	オムニバス
		薬学概論	3前		1		○								兼8	オムニバス
		チーム医療演習	4前	1				○		2	1	2			兼19	集中・共同
		多職種連携実習	4前		1				○				1		兼3	
		小計(6 科目)	—	4	3	0				3	1	2	1	0	兼38	—

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)																
科目区分	授業科目の概要	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専	基盤看護学	看護学概論Ⅰ	1前	1			○			3	1					
		看護学概論Ⅱ	4前	1			○			2	1	3	3		兼3 共同	
		基礎看護方法論	1前	1				○		2	1	3	3		兼1 ※講義 共同	
		基礎看護技術Ⅰ(生活援助)	1後	2			○			2	1	3	3		※演習 共同	
		基礎看護技術Ⅱ(治療援助)	2前	2				○		2	1	3	3		※講義 共同	
		基礎看護技術Ⅲ(看護過程)	2前	2				○		1	1	3	3		※講義 共同	
		セイフティマネジメント	2前	1				○		1			3		兼1 共同	
		感染看護論	4後		1			○		1			1		兼1 共同	
		看護マネジメント	4前	1				○				1			兼1 共同	
		看護キャリア開発論	4後		1			○				1				
		看護学教育論	4前		1			○				1	1			
		基礎看護学実習Ⅰ(生活援助)	1前	1					○	3	1	3	3		兼3 共同	
		基礎看護学実習Ⅱ(看護過程)	2後	2					○	2	1	3	3		兼3 共同	
小計(13科目)		-	14	3	0		-		3	1	3	3	0	兼13 -		
門	療養支援看護学	成人看護学概論	2前	2			○			2					※演習 共同	
		急性看護援助論	2後	2			○			1	1	1	1	1	兼1 ※演習 共同	
		慢性看護援助論	2後	2			○			1	1		1		兼1 ※演習 共同	
		がん看護援助論(含終末期看護)	3前	2			○			1	1		1		兼1 ※演習 共同	
		成人看護技術演習	3前	1				○		2	2	2	2	2	※演習 共同	
		クリティカルケア論	4後		1			○		1	1	1			兼2 共同	
		代替療法と看護	4前		1			○		1					※演習 共同	
		成人看護学実習Ⅰ(急性)	3後	3					○	1	1	1	1	1		共同
		成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3後	3					○	2	1	1	1	1		共同
		小計(9科目)		-	15	2	0		-		3	2	2	2	2	兼5 -
分	家族支援看護学	精神看護学概論	2後	2			○			1	1	1				
		精神看護援助論	3前	2			○			1	1	1			※演習 共同	
		学校保健と心の問題	4前		1			○		1	1	1				
		精神看護学実習	3後	2					○	1	1	1			共同	
		小計(4科目)		-	6	1	0		-		1	1	1	0	0	兼0 -
野	生活支援看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1	1		1		※演習 共同	
		小児看護援助論Ⅰ	2後	1			○			1	1		1		※演習 共同	
		小児看護援助論Ⅱ	3前	1				○		1	1		1		兼3 ※講義 共同	
		子育てと文化	2後		1			○		1					※講義 共同	
		小児看護学実習	3後	2					○	1	1		1		共同	
		小計(5科目)		-	6	1	0		-		1	1	0	1	0	兼3 -
		母性看護学概論	2後	2				○			2	1				
		母性看護援助論	3前	2				○			1	1		1		兼2 ※演習 共同
		ヒューマンセクシュアリティと看護	2後		1			○					1			
		母性看護学実習	3後	2					○	1	1		1			共同
小計(4科目)		-	6	1	0		-		2	1	1	1	0	兼2 -		
野	総合	基礎助産学	4前		1		○			2						
		助産診断技術学Ⅰ(周産期・新生児の健康診査)	4前		3		○			1		1	1		兼2 ※演習 共同	
		助産診断技術学Ⅱ(助産診断実践過程)	4前		3		○			2	1	1	2		兼11 ※演習 共同	
		助産管理	4前		1		○			1					※演習 共同	
		助産学実習	4後		7			○		2	1	1	2		兼11 共同	
		小計(5科目)		-	0	15	0		-		2	1	1	2	0	兼12 -
		老年看護学概論	2前	2			○			1	1		2			共同
		老年看護援助論	2後	1			○			1	1		1			
		老年看護技術演習	3前	1				○		1	1		2			共同
		認知症ケア方法論	4後		1			○		1	1					
老年看護学実習	3後	3					○	1	1		2			共同		
小計(5科目)		-	7	1	0		-		1	1	0	2	0	兼0 -		
野	総合	公衆衛生看護学概論	2後	1			○			1					兼1 共同	
		公衆衛生看護活動論	3前	2			○			1					兼1 共同	
		公衆衛生看護方法論	4前		2			○		1		1	1			
		公衆衛生看護管理論	4前		1			○		1						
		公衆衛生看護方法論演習	4前		3			○				1	1		共同	
		公衆衛生看護学実習	4後		4				○	1		1	1		兼1 共同	
		小計(6科目)		-	3	10	0		-		1	0	1	1	0	兼2 -
		地域・在宅看護論Ⅰ	1前	2			○			6	4	1		2		※演習 共同
		地域・在宅看護論Ⅱ	2後	2			○			1	1					
		地域・在宅看護援助論	3前	2				○		1	1			2		
ケアマネジメント論	4前		1			○				1		1				
地域・在宅看護実習	3後	2					○	1	1			2				
小計(5科目)		-	8	1	0		-		6	4	1	0	2	兼0 -		
野	総合	研究方法論	3前	1			○			1					※演習 共同	
		統合看護実習	4前	3				○		13	8	8	12	4	共同	
		国際看護	4前	1			○			2	1					
		家族看護論	3前		1		○			4						
		災害看護	4前	1			○			1						※演習 共同
		看護研究セミナー	4通年	2				○		13	8	8	12			共同
		小計(6科目)		-	8	1	0		-		13	8	8	12	4	兼0 -
合計(116科目)		-	116	77	0		-		15	8	10	12	4	兼161 -		
学位又は称号	学士(看護学)			学位又は学科の分野					保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
基礎分野：必修16単位、選択8単位以上、専門基礎分野：必修27単位、選択4単位以上、専門分野：必修73単位、選択5単位以上、計必修116単位、選択17単位以上の合計133単位以上を卒業要件とする。 *基礎分野選択科目のうち、韓国語、中国語から2単位を選択必修とする。 (履修科目の登録の上限：47単位(年間))								1学年の学期区分			2				期	
								1学期の授業期間			15				週	
								1時限の授業時間			90				分	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	看護科学研究論		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 看護研究を実施するために必要な概念及び基本的知識、研究手法を学び、EBN (Evidence Based Nursing) に基づいた看護実践を促進できる研究能力を養う。</p> <p>①看護研究を行う上で必要となる研究方法の基本的知識について学修する。 ②看護研究の具体的なプロセスと研究方法について学修する。 ③理論的根拠に基づいた看護実践の意義と研究課題に基づいた研究推進について学修する。</p> <p>■授業科目の概要 高度な研究能力を育成し、グローバルレベルで看護の理論や実践における新たな知見を獲得するための重要な科目で、以下の内容を含むものとする。</p> <p>1) 研究デザインと方法論：看護研究の基本的な設計や方法論について学ぶ。 定量的・定性的手法の選択や実施方法、データ収集、分析技術などを含む。 (第1-13回)</p> <p>2) 倫理とリーダーシップ：研究倫理やコミュニケーションスキルを通して、看護研究者としての倫理的責任やリーダーシップの重要性について習熟する。 (第14回)</p> <p>3) 学術論文執筆スキルの向上：学術的な論文執筆スキル向上のために、文献レビュー、論文構成、国際的・学際的な場における研究発表技術について習熟する。 (第15回)</p> <p>(① 今野理恵/2回) 第12・13回：今野 Review 研究 (質的・メタアナリシス) の方法と論文作成 質的Review研究：概要・方法・論文作成 メタアナリシス：概要・方法・論文作成</p> <p>(④ 神崎初美/10回) 第1回：神崎 リサーチクエスションの設定と組み立て トピックの特定・背景の調査・研究目的の明確化・リサーチクエスションの設定・クエスションを組み立てる。 第2回：神崎 系統的文献検索手法と実践 問いの明確化・データベースの選定・検索戦略の構築・文献の選定・文献の評価・結果を分析する。 第3回：神崎 概念枠組み開発 概念分析に関する論文レビュー (概念の選定・文献レビュー・概念定義と要素の識別・関連する概念の探求・枠組みの構築)</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			<p>第4・5回：神崎 尺度開発とモデル構築（確証的因子分析） 尺度開発：概念の定義可・項目の選定・信頼性や妥当性の検証モデル構築：仮説の構築・データ収集と分析を行う。</p> <p>第6回：神崎 質的研究デザインの理解 質的研究の基礎理論・研究デザインの選択・データ収集方法の理解・分析手法の習得・信頼性と妥当性の確保について学修する。</p> <p>第10・11回：神崎 介入研究 介入研究の基本概念・介入の設計と計画・介入の実施と管理・データ収集と評価・結果の解釈と報告について学修する。</p> <p>第14回：神崎 研究倫理 患者や被験者の権利・倫理委員会の承認・データの適切な取り扱い・バイアスや利益相反の管理・研究チームのリーダーシップ・結果の公正な報告とオーサーシップについて学修する。</p> <p>第15回：神崎 論文執筆と投稿 論文の構造と論理展開・論文執筆における効果的な表現方法・学術雑誌の選択基準と投稿要領・ピアレビューとそのプロセス・論文の修正と改善のプロセスについて学修する。</p> <p>(⑫ 藤本 浩一／3回)</p> <p>第7回：藤本 統計学的方法の理解 基本的統計学の理解・統計的手法の適用・統計ソフトウェアの利用・統計結果の解釈・統計的な論文の読解について学修する。</p> <p>第8・9回：藤本 量的研究デザインと適応、分析の理解 基本的な量的研究の概念・量的研究のデザイン・変数の測定と分析・統計的手法の理解・信頼性と妥当性の確保について学修する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	理論看護学		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 研究を行う基盤として、またグローバルかつ学際的な視点から看護学の発展に寄与できる能力を修得するために、既存の看護理論についての知識を踏まえ、理論の開発手法（概念分析含む）や研究及び臨床での理論の活用方法について発展的に学修する。</p> <p>■授業科目の概要 看護理論の背景にある哲学を踏まえ、看護学及び看護における知や看護理論の成り立ちや構造を学び、興味関心のある現象について概念分析を行い、看護理論の分析・評価を行う。 (⑦ 鈴木みゆき・⑱ 鈴木志津枝) (共同)</p> <p>第1回： 看護の知・看護理論の成り立ちや構造、理論の基盤となる哲学について学修する。</p> <p>第2回： グローバルかつ学際的な視点から理論開発の動向を知り、理論の分析・評価を行う。</p> <p>第3回： 概念分析の手法と実際について学修する。</p> <p>第4回： 概念分析：国内外の研究事例を参照し、自身の興味・関心のある現象・概念の選定・手法の決定について学修する。</p> <p>第5回： 概念分析：概念についての対象論文の概観について学修する。</p> <p>第6回： 概念分析：手法にあった結果の提示について学修する。</p> <p>第7回： 看護理論の活用可能性の評価、及び看護実践、研究、教育の場における理論教育について学修する。</p> <p>第8回： 概念分析の発表・まとめ</p>	<p>共同</p> <p>講義 8時間 演習 8時間</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	看護倫理学		(概要) ■授業科目の目的 ①生命倫理学・看護倫理学をもとに看護学の研究者に必要な倫理的課題をグローバルかつ学際的な視点から探求する能力を修得する。 ②各研究領域での国内外の倫理的課題と研究方法について探求する能力を修得する。 ③研究の遂行に必要な研究倫理について考察し、研究計画書の倫理的配慮、同意書など研究に必要な倫理的課題を明確にした研究計画を策定できる。 ■授業科目の概要 ①看護学を科学的に探究するために求められる倫理的基盤を養い、看護研究を開発し発展させるために取り組むべき国内外の倫理的課題を明確にし、その対処方法を開発する。 ②看護学の発展に必要な研究の遂行において各研究領域における倫理的課題を抽出・分析し、対応するための能力を修得する。 (③ 森一恵・⑭ 加藤泰子/8回) 第1回：森・加藤 グローバルかつ学際的な視点から看護学の発展のための科学者としての倫理的視点を考察する。 ・受講者のこれまでの研究における倫理的課題。 ・受講者の専門領域における研究倫理に関する課題。 第2回：森・加藤 科学及び看護学における倫理的視点と人権の擁護について 研究者の倫理と研究倫理に関する指針について 第3回：森・加藤 倫理学の基礎：規範倫理学、記述倫理学、倫理原則など 看護学における倫理の概念：パターナリズム、ジレンマ、ケアの倫理についての国内外の倫理的課題 第4回：森・加藤 応用倫理学：生命倫理、医療倫理、職業規範、研究倫理など 応用倫理学における倫理の概念：メタ倫理学、科学技術の倫理、ハラスメントについての国内外の倫理的課題 第5回：森・加藤 看護倫理の基礎 医学・看護学における倫理の変遷と看護職の倫理的責任 第6回：森・加藤 研究倫理の変遷 看護研究における倫理的課題：研究デザインと倫理的課題 第7回：森・加藤 研究倫理審査体制：多職種による倫理審査のありかた 第8回：森・加藤 教育・研究機関における倫理教育について 臨床・実践機関における倫理教育について	講義 8時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			(10 澤井英明/1回) 第7回：澤井 研究倫理審査体制：多職種による倫理審査のありか たについて学修する。 (15 石田絵美子/1回) 第3回：石田 倫理学の基礎：規範倫理学、記述倫理学、倫理原則 などについて学修する。 看護学における倫理の概念：パターナリズム、ジレ ンマ、ケアの倫理についての国内外の倫理的課題 について学修する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎科目	看護システム開発学		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 看護実践の質向上に寄与する新たな看護システムを開発・変革するためのビッグデータやAI、IoTなどのデジタル技術の活用について、必要な概念及び基本的知識、研究手法を学び、EBN (Evidence Based Nursing) に基づいた看護実践を促進できる研究能力を養う。</p> <p>■授業科目の概要 看護実践の質向上、EBNの実装に寄与する新たな看護システムを開発・変革するための具体的手法について学修する。 従来の手法にとらわれない、革新的なシステム開発や変革の方略として、ビッグデータやAI、IoTなどのデジタル技術の活用について学修し、看護システムの開発やEBNに根ざした看護実践に活かす手法を修得する。また、効果及び効率的に看護システムを変革していくために、修士課程(博士前期課程)での看護管理論や看護政策論、倫理学の知識を踏まえ、Society 5.0における看護システムの創造、変革のありようについて、グローバルかつ学際的な視点から検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(⑬ 井上正隆/3回)</p> <p>第1回：井上 様々なデジタル技術の概要と仕組み、EBNに根ざした看護学と理工学の協働 看護システムへの応用、EBNの実装を念頭に、様々なデジタル技術とその技術が持つ特性に焦点を当て、「繋がり、感知、計測する技術」、「データを蓄積し活用する技術」、「仮想現実を作る技術」、「人間の動きを代替、補助する技術」に分け、その概要と仕組みを理解する。</p> <p>第2回：井上 システム開発論 システムとは何か、システムとサブシステムの関係、システム開発の実際について学修し、システム開発の基盤となる思考過程を修得する。</p> <p>第8回：井上 Society 5.0における看護システムの変革の提案 学生が、学修したデジタル技術を用いて、看護実践の質向上、EBNの実装に寄与する。 新たなシステム提案を行い、学修内容を共有する。</p> <p>(⑰ 石川 洋子/1回)</p> <p>第7回：石川 Society 5.0の哲学と倫理 Society 5.0時代の哲学と倫理について学修し、看護学への応用を検討する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			<p>(⑱ 山田覚／3回)</p> <p>第1回：山田 様々なデジタル技術の概要と仕組み、EBNに根ざした看護学と理工学の協働 看護システムへの応用、EBNの実装を念頭に、様々なデジタル技術とその技術が持つ特性に焦点を当て、「繋がり、感知、計測する技術」、「データを蓄積し活用する技術」、「仮想現実を作る技術」、「人間の動きを代替、補助する技術」に分け、その概要と仕組みを理解する。</p> <p>第2回：山田 システム開発論 システムとは何か、システムとサブシステムの関係、システム開発の実際について学修し、システム開発の基盤となる思考過程を修得する。</p> <p>第8回：山田 Society 5.0における看護システムの変革の提案 学生が、学修したデジタル技術を用いて、看護実践の質向上、EBNの実装に寄与する。 新たなシステム提案を行い、学修を共有する。</p> <p>(⑳ 敷田幹文／1回)</p> <p>第3回：敷田 繋がり、感知、計測する技術（センシングとIoT） ICT、センサリングとIoTの組み合わせによる現象の数量化についてその仕組みを学修し、看護学への応用を検討する。</p> <p>(㉑ 藤井誠／1回)</p> <p>第4回：藤井 データを蓄積し活用する技術（ビックデータ、深層学習） NDPなどのビックデータを集積、分析する意義とその分析手法に関わる深層学習について学修し、看護学への応用を検討する。</p> <p>(㉒ 仁木一順／1回)</p> <p>第5回：仁木 仮想現実を作る技術（VR、AR、メタバース） デジタル技術を用いた現実世界を再現する技術とその拡張可能性について学修し、看護学への応用を検討する。（できれば実例が良い）</p> <p>(㉓ 中澤篤志／1回)</p> <p>第6回：中澤 人間の動きを代替、補助する技術（ロボティクス） 現実世界で人間の動きを代替、補助する技術としてのロボティクスについて学修し、看護学への応用を検討する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	看護ケア実践開発 科学特講		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的、 グローバルかつ学際的な視点から看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における課題を探求し、理論的、実践的に探究する。</p> <p>■授業科目の概要 看護学領域と周辺学問領域の諸理論を学修し、国内外の研究についてクリティークを行う。 諸理論や国内外の研究並びにディスカッションを通して、看護技術と看護ケアのエビデンスの開発における諸課題を分析し解決するための方略について考察する。</p> <p>(② 土田敏恵/7回)</p> <p>第1回・2回：土田 グローバルな視点から看護の知の構造における歴史の変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>第3回：土田 学際的研究の視点から看護の実践知と実践知研究について学修する。</p> <p>第4回：土田 看護技術と看護ケアの開発に関する研究の理論的視座について学修する。</p> <p>第6回：土田 国内外の研究事例の紹介を通して看護ケアの疫学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：土田 看護技術と看護ケアの開発における国内外の課題、その背景や影響する要因分析について学修する。</p> <p>第8回：土田 Implementation Scienceを紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p> <p>(⑦ 鈴木みゆき/7回)</p> <p>第1回・2回：鈴木 グローバルな視点から看護の知の構造における歴史の変遷と理論的基盤について学修する。</p> <p>第3回：鈴木 学際的研究の視点から看護の実践知と実践知研究について学修する。</p> <p>第4回：鈴木 看護技術と看護ケアの開発に関する研究の理論的視座について学修する。</p> <p>第5回：鈴木 国内外の研究事例の紹介を通して看護技術の生理学的検証に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：鈴木 看護技術と看護ケアの開発における国内外の課題、その背景や影響する要因分析について学修する</p> <p>第8回：鈴木 Implementation Scienceを紹介し、看護技術と看護ケアの臨床実践現場への実装を通して発信・変革・教育について学修する。</p>	<p>講義 8時間 演習 8時間</p>

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	看護教育学特講		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 看護教育における研究課題と方法論をグローバル、かつ学際的な視点から検討・探求することで、エビデンスと実践を有機的に繋ぐための研究方法論の生成やモデル構築を目指す。</p> <p>■授業科目の概要 看護学教育実践における諸理論や主要概念について国内外の実践上、研究上の動向を検証する。看護学教育における諸課題を分析し解決するための方略について考察する。</p> <p>(① 前川幸子/全8回)</p> <p>第1回・2回：前川 教育 - 学習における歴史的変遷と理論的哲学的基盤について学修する。</p> <p>第3回：前川 教育実践に関する研究の理論的視座について学修する。</p> <p>第4回：前川 看護実践現場における教育的課題について学修する。</p> <p>第5回：前川 看護教育実践と反省的実践について学修する。</p> <p>第6回：前川 看護教育実践における研究課題と研究方法論の生成について学修する。</p> <p>第7回：前川 看護教育実践の基盤となる概念枠組みと主要理論の概観について学修する。</p> <p>第8回：前川 研究計画書の作成に向けた予備的検討について学修する。</p>	講義 8時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	政策・管理 看護学特講		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 質の高い看護サービスの提供を可能とする組織とシステムのあり方について、個々の医療機関レベルから国内外の政策レベルに至る全体を俯瞰の上で検討した上で、変革を要する課題とその研究論を追究する。</p> <p>■授業科目の概要 看護学政策・管理学における国内外の取り組みと課題、研究の動向について様々な先行文献を検証し、クリティークやディスカッションを通して理解を深め、興味のあるテーマの課題と研究方法を検討する。</p> <p>(⑥ 林千冬／全8回)</p> <p>第1回：林 オリエンテーション 看護管理・政策に関する各自の関心・問題意識を共有する。</p> <p>第2回～5回：林 看護管理・政策に関して、各自が関心のある現象について、国内外の文献・書籍の検討を通して理解を深めるとともに、自己の研究テーマを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な施設における看護サービスの管理をめぐる現象 ・地域における看護サービス管理をめぐる現象 ・現下の看護管理者教育に関する制度と教育課程をめぐる現象 ・その他、議論・検討から新たに見出された課題について適宜検討 <p>第6回・7回：林 各自が選択した現象を探究することが、看護学の知の蓄積と看護実践の開発の双方において、どのように貢献するかについて考察し、実装化に向けた教育について検討することができる。</p> <p>第8回：林 まとめ</p>	講義 8時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	高度実践開発看護学特講		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 高度な医療レベルを必要とする個人と家族を対象に、療養生活の支援に必要な専門的看護援助・患者教育方法などの看護実践や患者教育について研究論文のレビューを行う。周手術期看護、クリティカルケア、救急看護、がん看護の視点を重視した専門分野における課題を明確にし、最新の知見や動向、さらには知識の創出や看護ケアの開発について理解を深め、関心ある研究テーマへと発展させるための理論開発及び研究手法を検討する。その上で、広く国内外の看護実践について吟味し、専門分野を含む学際的な視点に基づいた新たな看護実践の概念枠組み及びケアの質を向上し、広く実装するための教育力を高める。以上のような看護の適用に貢献できる研究テーマと研究方法を検討することで、新たな看護学の知見を臨床で実装し、広く共有するための教育力を養う。</p> <p>■授業科目の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度実践開発看護学における理論・概念、研究の動向について文献レビューを行う。 クリティカルケア、周手術期ケアなど治療期にある患者の療養生活の課題について明らかにする。 治療期から終末期までの意思決定に関わる諸課題を明らかにする。 高度な看護実践を臨床現場に適応するための方略を構築する教育力を養う。 高度実践開発看護学における関心あるテーマについて課題を明確にする。 <p>(③ 森一恵/6回)</p> <p>第1回：森 高度実践開発看護学における理論・概念と研究の動向について学修する。</p> <p>第2回：森 クリティカルケアを受ける患者の療養生活に関する課題を明確化する。</p> <p>第3回：森 周手術期患者の療養生活に関する課題について学修する。</p> <p>第4回：森 治療・予後の意思決定に関する課題について学修する。</p> <p>第7回：森 患者の療養支援に携わる医療従事者の課題を明確化する。</p> <p>第8回：森 関心のある研究テーマに関連したプレゼンテーション 学生の関心ある課題について、研究の動向と関連する概念や理論、臨床現場に適用するための方略についてプレゼンテーションする。</p> <p>(⑧ 府川晃子/5回)</p> <p>第1回：府川 高度実践開発看護学における理論・概念と研究の動向について学修する。</p>	講義 8時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			第5回：府川 治療期にあるがん患者の療養生活に関する 課題について学修する。 第6回：府川 終末期にあるがん患者の看護における課題 について学修する。 第7回：府川 患者の療養支援に携わる医療従事者の課題 を明確化する。 第8回：府川 関心のある研究テーマに関連したプレゼン テーション 学生の関心ある課題について、研究の動向 と関連する概念や理論、臨床現場に適用す るための方略についてプレゼンテーションする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	生活支援開発 看護学特講		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 病院及び在宅で生活・療養するあらゆるライフステージにある人々の健康問題や健康課題を生活者としての視点を中心にグローバルかつ学際的に捉え、国内外の文献を系統的に検索して過不足なく収集し、適切にクリティークすることを通して、知識の創出や看護ケア開発の可能性について検討する。研究成果を臨床現場に実装化する方法について探求する。また、看護職への教育力の向上を目指す。これらのプロセスを通して各自の研究課題を明確にする。</p> <p>■授業科目の概要 健康問題・健康課題を生活者の視点で多角的に文献を収集・検討する。研究エビデンスの実装化と臨床に実装化する方法を検討する。</p> <p>(① 今野理恵/2回) 第7・8回：今野 学生の関心のある高齢者ケア関連の課題について、国内外の先行研究を検討し、理解と考察を深めるとともに、研究エビデンスの実装化に求められる教育について検討する。</p> <p>(④ 神崎初美/2回) 第1・2回：神崎 学生の関心ある概念や健康課題について慢性看護</p> <p>(⑤ 堀口和子/2回) 第3・4回：堀口 学生の関心のある地域・在宅ケアにおける健康課題について、医療保健福祉制度、社会情勢、経済、文化・価値観など学際的な視点で国内外の文献を検討し、新たな看護ケアの開発と実装化に向けて検討する。</p> <p>(⑨ 西村明子/2回) 第5・6回：西村 学生の関心あるリプロダクティブヘルスにおける課題を解決するため、ライフステージ、医療、教育、倫理、文化、歴史的側面など学際的な視点で幅広く国内外の文献を検討し、今後の研究の方向性や研究成果を臨床現場に実装化する方法について検討する。</p>	講義 8時間 演習 8時間

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究 I		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的</p> <p>①専門分野における課題を分析・解決するため、研究計画立案に関する応用能力を修得する。</p> <p>②学生個々の専門分野において、文献レビュー等により研究状況を明らかにし、テーマの選択、研究意義、研究目的、概念枠組み、調査方法、分析方法を吟味し、研究デザインを明確にする。</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>①関心領域の文献レビューを行い多角的に研究課題を検討する。</p> <p>②研究課題について研究デザインを検討し、研究計画案を作成する。</p> <p>③研究計画書について指導教員以外から広く意見を得る機会を持ち、研究倫理審査を受ける準備をする。</p> <p>第1回～4回：主指導教員、副指導教員 関心領域における課題について、先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークから研究課題及び方法論を明確化する。</p> <p>第5回～8回：主指導教員、副指導教員 研究計画書を作成する。</p> <p>第9回・10回：主指導教員、副指導教員 研究遂行に必要な具体的な倫理的配慮の内容を計画する。</p> <p>第11回・12回：研究指導教員、研究指導補助教員※ 研究計画書について中間報告会 I でプレゼンテーションを行い、教員からの多角的な意見を得る。 ※主指導教員、副指導教員以外の研究指導教員、研究指導補助教員も含む</p> <p>第13回・14回：主指導教員、副指導教員 中間報告会 I の意見を参考に研究計画書を修正し、看護学研究科教授会での審査を受ける準備を行う。</p> <p>第15回：主指導教員、副指導教員 研究計画書の審査に合格した後に、研究倫理審査を受ける準備を行う。</p> <p>【研究指導体制】</p> <p>① 主指導教員と副指導教員の複数指導体制をとる。</p> <p>② 中間報告会 I で研究計画を発表し、助言に基づき研究計画書の修正を行い完成度を高める。</p> <p>③ 年度末に研究活動報告書を学生と共に検討する。主指導教員と共に検討した研究指導計画書を学生が提出し、自らの研究活動についてリフレクションを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>【研究分野と研究キーワード】</p> <p>① 今野理恵： 老年看護学、Evidence-Based Health Care (システマティックレビュー、質的メタ統合、 質的研究、高齢者、認知症)</p> <p>② 土田敏恵： 基礎看護学、看護技術に関する実務 (看護技術の開発と評価、感染看護、 ストーマケア、排泄ケア、疫学研究)</p> <p>③ 森一恵： 急性看護学(急性期看護に関する実務)、 がん看護学(がん看護学に関する実務)、 看護倫理学(意思決定支援、Advanced Care Planing、看護倫理、緩和ケア、終末期看護)</p> <p>④ 神崎初美： 臨床看護学関連、高齢者看護学及び 地域看護学関連 (慢性病看護学、災害看護学)</p> <p>⑤ 堀口和子： 高齢者看護学、地域看護学関連 (在宅看護、訪問看護、家族看護学、 高齢看護学、地域看護学)</p> <p>⑥ 林千冬： 看護政策学 (看護管理、人事労務管理、リーダーシップ、 フォロワーシップ、看護政策、教育養成制度、 人材供給問題)</p> <p>⑦ 鈴木みゆき： 看護学(基礎看護学、自立、ケア開発、 ケア評価)</p> <p>⑧ 府川晃子： がん看護学(薬物療法、緩和ケア、 高齢がん患者)</p> <p>⑨ 西村明子： 生涯発達看護学関連(生涯発達看護学)</p> <p>10 島正之： 社会医学(疫学、予防医学、公衆衛生学、 衛生学、環境保健学)</p> <p>⑩ 澤井英明： 外科系臨床医学、内科系臨床医学、社会医学 (産婦人科学、小児科学、整形外科学、 遺伝カウンセリング、臨床遺伝学)</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			12 廣金和枝： 看護学、教育学、保健師に関する実務 （保健師基礎教育、学校保健） 13 田村康子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、国際看護、災害看護） 14 石原あや： 小児看護学に関する実務、教育学 （小児看護学、家族看護学、子育て支援、 看護教育学） ⑪ 前川幸子： 看護学（看護教育学、基礎看護学） ⑫ 藤本浩一： 看護学（臨床看護学、精神看護学） 17 井上満代： 看護学（慢性病看護学、看護教育学） ⑬ 井上正隆： 基礎看護学（デジタル技術、看護教育、 シミュレーション、アセスメント、 クリティカルケア看護） 19 川内恵美子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、看護管理学、 ワーク・エンゲイジメント、性教育） ⑭ 加藤泰子： 看護学、高齢者看護学 （高齢者看護 認知症看護） 21 藤井加那子： 生涯発達看護学（小児看護学、家族看護学） ⑮ 石田絵美子： 臨床看護学、精神看護学 （精神科看護、精神障害者、経験、現象学）	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究Ⅱ		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 研究計画に基づき、調査を実施し収集したデータを分析し、結果をまとめ考察する一連のプロセスを実施し研究実践能力を養う。</p> <p>■授業科目の概要</p> <p>① 研究計画書について研究倫理審査の結果を受け、研究の実施を具体的に進める。 ② 研究計画書に基づいて研究を遂行し、得られたデータを分析・考察する。 ③ 研究の進捗状況をまとめて発表し、研究のリフレクションと修正を検討する。</p> <p>第1回・2回：主指導教員、副指導教員 研究計画書の審査及び研究倫理審査の結果を受けて、研究実施に向け準備する。</p> <p>第3回～8回：主指導教員、副指導教員 研究計画に従いデータ収集を行う。 得られたデータを分析し、研究目的に基づいて分析結果をまとめ解釈を深める。</p> <p>第9回～11回：主指導教員、副指導教員 分析結果に基づき、研究目的と意義に沿って考察する。 研究を学位論文として執筆する。 研究の進捗状況をまとめ、中間報告会Ⅱの準備をする。</p> <p>第12回：研究指導教員、研究指導補助教員全員※ 中間報告会Ⅱでプレゼンテーションする。 ※主指導教員、副指導教員以外の研究指導教員、研究指導補助教員も含む</p> <p>第13回～15回：主指導教員、副指導教員 中間報告会Ⅱで受けた意見をもとにデータの分析・解釈を深化させるとともに、必要に応じて研究計画の修正を行う。 年度末に実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した研究活動報告書を主指導教員と共に検討し提出する。 自らの研究活動についてリフレクションを記録し、研究遂行に関する課題を明確にする。 研究活動報告書の内容を看護学研究科教授会にて審査を受ける準備を行う。</p> <p>【研究指導体制】</p> <p>① 主指導教員と副指導教員の複数指導体制をとる。 ② 中間報告会Ⅱで研究の進捗状況について報告するため、主指導教員・副指導教員が資料及びプレゼンテーションについて指導する。 ③ 年度末に、実施した研究活動と次年度の研究計画について記載した研究活動報告書を、学生と共に検討する。主指導教員と共に検討した研究活動報告書を学生が提出し、自らの研究活動についてリフレクションを行う。 ④ 学位論文作成過程において、主指導教員・副指導教員が必要に応じて執筆内容の修正を指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
			<p>【研究分野と研究キーワード】</p> <p>① 今野理恵： 老年看護学、Evidence-Based Health Care (システマティックレビュー、質的メタ統合、 質的研究、高齢者、認知症)</p> <p>② 土田敏恵： 基礎看護学、看護技術に関する実務 (看護技術の開発と評価、感染看護、 ストーマケア、排泄ケア、疫学研究)</p> <p>③ 森一恵： 急性看護学(急性期看護に関する実務)、 がん看護学(がん看護学に関する実務)、 看護倫理学(意思決定支援、Advanced Care Planing、看護倫理、緩和ケア、終末期看護)</p> <p>④ 神崎初美： 臨床看護学関連、高齢者看護学及び 地域看護学関連 (慢性病看護学、災害看護学)</p> <p>⑤ 堀口和子： 高齢者看護学、地域看護学関連 (在宅看護、訪問看護、家族看護学、 高齢看護学、地域看護学)</p> <p>⑥ 林千冬： 看護政策学 (看護管理、人事労務管理、リーダーシップ、 フォロワーシップ、看護政策、教育養成制度、 人材供給問題)</p> <p>⑦ 鈴木みゆき： 看護学(基礎看護学、自立、ケア開発、 ケア評価)</p> <p>⑧ 府川晃子： がん看護学(薬物療法、緩和ケア、 高齢がん患者)</p> <p>⑨ 西村明子： 生涯発達看護学関連(生涯発達看護学)</p> <p>10 島正之： 社会医学(疫学、予防医学、公衆衛生学、 衛生学、環境保健学)</p> <p>⑩ 澤井英明： 外科系臨床医学、内科系臨床医学、社会医学 (産婦人科学、小児科学、整形外科学、 遺伝カウンセリング、臨床遺伝学)</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			12 廣金和枝： 看護学、教育学、保健師に関する実務 (保健師基礎教育、学校保健) 13 田村康子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、国際看護、災害看護） 14 石原あや： 小児看護学に関する実務、教育学 (小児看護学、家族看護学、子育て支援、 看護教育学) ⑪ 前川幸子： 看護学（看護教育学、基礎看護学） ⑫ 藤本浩一： 看護学（臨床看護学、精神看護学） 17 井上満代： 看護学（慢性病看護学、看護教育学） ⑬ 井上正隆： 基礎看護学（デジタル技術、看護教育、 シミュレーション、アセスメント、 クリティカルケア看護） 19 川内恵美子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、看護管理学、 ワーク・エンゲイジメント、性教育） ⑭ 加藤泰子： 看護学、高齢者看護学 (高齢者看護 認知症看護) 21 藤井加那子： 生涯発達看護学（小児看護学、家族看護学） ⑮ 石田絵美子： 臨床看護学、精神看護学 (精神科看護、精神障害者、経験、現象学)	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究Ⅲ		<p>(概要)</p> <p>■授業科目の目的 「特別研究Ⅱ」で受けたリフレクションをもとに学位論文の作成を通して、研究の一貫したプロセスを遂行する研究実践能力を養う。</p> <p>■授業科目の概要 学位論文に関連する論文をまとめ、学術誌に投稿する。</p> <p>第1回～20回：主指導教員、副指導教員 収集したデータの分析について主指導教員から適宜、指導を受ける。 研究の手法に合わせて研究の一貫性、妥当性などを検討し論文をブラッシュアップする。</p> <p>第21回～30回：主指導教員・副指導教員 学位論文に関連する論文を学術誌に投稿する。</p> <p>【研究指導体制】</p> <p>①主指導教員と副指導教員の複数指導体制をとる。 ②中間報告会Ⅱでのリフレクションを参考に学位論文及び学位論文に関連する論文をまとめる。 ③学位論文に関連する論文を学術誌へ投稿できるように指導する。</p> <p>【研究分野と研究キーワード】</p> <p>① 今野理恵： 老年看護学、Evidence-Based Health Care（システマティックレビュー、質的メタ統合、質的研究、高齢者、認知症）</p> <p>② 土田敏恵： 基礎看護学、看護技術に関する実務（看護技術の開発と評価、感染看護、ストーマケア、排泄ケア、疫学研究）</p> <p>③ 森一恵： 急性看護学（急性期看護に関する実務）、がん看護学（がん看護学に関する実務）、看護倫理学（意思決定支援、Advanced Care Planing、看護倫理、緩和ケア、終末期看護）</p> <p>④ 神崎初美： 臨床看護学関連、高齢者看護学及び地域看護学関連（慢性病看護学、災害看護学）</p> <p>⑤ 堀口和子： 高齢者看護学、地域看護学関連（在宅看護、訪問看護、家族看護学、高齢看護学、地域看護学）</p> <p>⑥ 林千冬： 看護政策学（看護管理、人事労務管理、リーダーシップ、フォロワーシップ、看護政策、教育養成制度、人材供給問題）</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			<p>⑦ 鈴木みゆき： 看護学（基礎看護学、自立、ケア開発、 ケア評価）</p> <p>⑧ 府川晃子： がん看護学（薬物療法、緩和ケア、 高齢がん患者）</p> <p>⑨ 西村明子： 生涯発達看護学関連（生涯発達看護学）</p> <p>10 島正之： 社会医学（疫学、予防医学、公衆衛生学、 衛生学、環境保健学）</p> <p>⑩ 澤井英明： 外科系臨床医学、内科系臨床医学、社会医学 （産婦人科学、小児科学、整形外科学、 遺伝カウンセリング、臨床遺伝学）</p> <p>12 廣金和枝： 看護学、教育学、保健師に関する実務 （保健師基礎教育、学校保健）</p> <p>13 田村康子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、国際看護、災害看護）</p> <p>14 石原あや： 小児看護学に関する実務、教育学 （小児看護学、家族看護学、子育て支援、 看護教育学）</p> <p>⑪ 前川幸子： 看護学（看護教育学、基礎看護学）</p> <p>⑫ 藤本浩一： 看護学（臨床看護学、精神看護学）</p> <p>17 井上満代： 看護学（慢性病看護学、看護教育学）</p> <p>⑬ 井上正隆： 基礎看護学（デジタル技術、看護教育、 シミュレーション、アセスメント、 クリティカルケア看護）</p> <p>19 川内恵美子： 看護学（生涯発達看護学、母性・女性看護学、 助産学、看護管理学、 ワーク・エンゲイジメント、性教育）</p> <p>⑭ 加藤泰子： 看護学、高齢者看護学 （高齢者看護 認知症看護）</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業科目	講義等の内容	備考
			21 藤井加那子： 生涯発達看護学（小児看護学、家族看護学） ⑮ 石田絵美子： 臨床看護学、精神看護学 （精神科看護、精神障害者、経験、現象学）	

学校法人兵庫医科大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容定員	変更の事由
兵庫医科大学				兵庫医科大学				
医学部				医学部				
医学科	112	—	672	医学科	108	—	668	
薬学部				薬学部				
医療薬学科	150	—	900	医療薬学科	150	—	900	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
理学療法学科	40	—	160	理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	作業療法学科	40	—	160	
計	442	—	2,292	計	438	—	2,288	
兵庫医科大学大学院				兵庫医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻(D)	40	—	160	医科学専攻(D)	40	—	160	
先端医学専攻(D)	20	—	80	先端医学専攻(D)	20	—	80	
薬学研究科				薬学研究科				
医療薬学専攻(D)	3	—	12	医療薬学専攻(D)	3	—	12	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻(M)	8	—	16	看護学専攻(M)	8	—	16	
看護学専攻(D)				看護学専攻(D)	2	—	6	課程変更(認可申請)
リハビリテーション科学研究科				リハビリテーション科学研究科				
リハビリテーション科学専攻(M)	8	—	16	リハビリテーション科学専攻(M)	8	—	16	
リハビリテーション科学専攻(D)				リハビリテーション科学専攻(D)	2	—	6	課程変更(認可申請)
計	79	—	284	計	83	—	296	